

入選

# 大切な家族

二年 池内陸真

僕の家には一歳になったばかりのオス猫がいる。昨年に僕の家で飼うことになった。

元々、僕の家で犬や猫を飼うつもりはあまりなかった。なぜなら母が幼少期、犬を飼った経験があり、死を受け入れるのが辛くて飼いたくないと言っていたからだ。

しかし、昨年夏頃、兄が体調不良で数ヶ月間学校に行けなくなり、兄がある時「猫を飼いたい。」と言ってきた。僕も犬か猫を飼いたいと思っていたので賛成した。両親に話しても反対されると思い半分諦めていたが意外にも両親は反対せず、まずは猫を見に行ってみることになった。僕は母になぜ猫を飼うことに前向きになったのか聞いてみたところ、兄があまり学校に行けてなく、家族みんなも神経質になっている今、ペットを飼うことでみんなの心の癒しになるかもしれない、と母は考えたそうだ。

飼うかどうかまだ迷っている中、猫を見にブリーダーのところに母と兄と僕の三人で行った。子猫はすぐに甘えてお腹を出して僕たちを受け入れてくれた。ブリーダーもその様子に驚いていた。母は「見に行くだけだ」と言っていたはずなのに、兄と僕に確認することもなく「この子を家族にしよう」とすっかり気に入って突っ走り、飼うことがその日のうちに決定した。父に報告したら、さすがに

驚き心配もしているようだったが、受け入れてくれた。

猫が家にきて、みんなで食事や排泄、遊び相手などの世話をしはじめた。僕はいつしか猫が弟のような家族の一員という感覚を初めて覚えた。また、今まで自分が不機嫌な時に家族にあたったり兄弟喧嘩をしてしまったりとストレスが余計に増えることが多かったが猫と一緒に生活するようになってから、家族の笑顔が増え、僕自身も猫のおかげで心が癒されていると実感している。

飼いはじめて一年。兄の体調もよくなり、家族も猫を通じて会話が増えた気がする。僕は猫を飼って本当によかったと思う。これからも家族皆で猫に愛情をいっぱい注いでいきたい。